

総合的な学習の時間における連続美術鑑賞活動の実践 — 教養総合授業「ひたすら展覧会に行ってみる」を例に —

早川 陽 (現代教育研究所所員 初等教育学科)

1. はじめに

本稿は、東京都港区の麻布高等学校「教養総合授業」で、2014・2015年度に(3学期制、各学期8回、計48回)実施した美術鑑賞プログラム「ひたすら展覧会に行ってみる」の実践報告である。小学校「図画工作」、中学校「美術」、高等学校「芸術」は、「表現」と「鑑賞」から成り立っているが、鑑賞教育の方法として実際に美術館等で作品の実物を観る機会は少ないのが現状である。

報告者は23年前の高等学校1学年当時、美術大学への進学を考え、集中的に展覧会を観て回ったことがある。その後、芸術大学の日本画専攻へ入学し、教員になってからはこの経験を授業として成り立たせることはできないかと考えていた。

学校教育で実践される鑑賞教育は、「自分の感じ方を基盤として、他者との感じ方の差異を自覚し、人々の感じ方の多様性を理解できるようになる¹」ことに重点が置かれている。しかし、基本的な情報量や鑑賞経験を充実させ「自分の感じ方の基盤」を作り上げていく方法も可能ではないか。

麻布高等学校は、徒歩圏内もしくは公共交通を利用して移動可能な距離に、文化施設が比較的多く存在するエリアにある。今回、外部講師として「教養総合授業」を担当することになり、美術鑑賞活動である「ひたすら展覧会に行ってみる」という授業が実現した。

この実践から、連続して展覧会を鑑賞することの学校教育での意味について考察を進めたい。

2. 美術科・芸術科の構成と課題

2-1 美術・芸術科の構成

麻布学園は中高一貫の男子校であり、6学年の学級数は各7クラス、生徒数は約1800名である。校風は「自由闊達」とされ、港区元麻布に位置する。高等学校からの生徒の募集はしていない。

中学校の「美術」「音楽」、及び高等学校の「芸術(音楽 美術 工芸 書道)」はそれぞれ専任教員²を配置して授業を計画している。また、音楽室・美術室・工芸室・書道室は全て独立した教室で、「芸術棟」と呼ばれる建物に集約されている。加えて中学校第1学年は「美術」の時間数は通常45時間³であるが、麻布中学校第1学年は2014年・2015年は年間56時間～64時間を実施していた。これらのことから、一般的な中学校「美術」「音楽」及び高等学校「芸術」の設置状況⁴に比べて人材・空間・時間を総合的に充実させていることがわかる。

報告者は2006～2013年度に日本画を専門分野とする非常勤講師として、中学校美術科・高等学校芸術(美術)科の授業を担当⁵した。当時は主に中学校第1学年をみたが、授業中は質疑応答が盛んで、英語や日常の関心事項など、内容も「美術」に限らず多様であった。教員の返答の瞬発力と的確な話題提供が授業の流れに必須であった。また、授業の活発さや好奇心の旺盛さは教員にとっても非常に刺激的といえる。学内は生徒同士、個性を個性として認める雰囲気があり、その癖の強さを遠慮なく表出することが、美術では題材制作の発想の豊かさに繋がっていたように思われる。

生徒の中には絵画教室に通っていた者や、海外で暮らした際に美術館を回った経験のある者もあり、美術・芸術への関心は日常的に強い印象であった。一方で小学校時の図画工作や、中学校から始まる美術は苦手であると宣言する生徒も一般的な割合でみられた。

2-2 美術「鑑賞」の取り組みと課題

中学校「美術」科、高等学校「芸術（ここでは美術・工芸）」科の内容は「表現」と「鑑賞」から成り立っている。現行の「中学校学習指導要領」では「美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること（指導計画の作成と内容の取扱い2（2）」とあり、同解説には、「学校や地域の実態に応じて、実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり、作家や学芸員と連携したりして、可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする」とされる。

また「高等学校学習指導要領解説」では、「自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する（第1章総説 第1節改訂の趣旨1改訂の経緯（2）図画工作 美術 芸術（美術 工芸）（i）改善の基本方針）」等、鑑賞指導が一層重要視されるようになっている。このことから、教員研修や美術館の鑑賞教育活動も広く研究・実践されている。

三澤一実「美術教育の題材開発⁶」によると、鑑賞教育の種類は、「教師の数だけ鑑賞活動がある」とされ、学習スタイルの参考例として、○対話を取り入れた鑑賞、○アートカード、○追体験を通じた鑑賞、○比較鑑賞、○なりきり鑑賞、○研究調査、○展示活動、の7項目が挙げられている。

2006～2013年度、報告者の担当した中学校第1学年担当時の実際の授業内での「鑑賞」は、教科書・資料を使用した鑑賞、音楽を鑑賞してイメージを描く題材、スマートフォンでのイメージ検索の調査、生徒作品の相互鑑賞（課題作品についての意見発表）を行った。同じく教室外の活動では、徒歩圏内にある有栖川宮記念公園内の日本式庭園でのスケッチ（庭園の鑑賞）を実施した。また、作品批評活動を含む美術館鑑賞レポートを任意で課した。

学習指導要領における「表現」と「鑑賞」のバランスや相乗効果、また改訂によって重点の置かれた「伝統文化」「美術文化」「言語活動」について、各教科・各学年との課題の関係性を考慮しながら⁷全体の計画を立てる必要があった。

このことから、クラスの雰囲気や授業の流れをつかみ、「表現」と「鑑賞」のバランスをどのようにつくるかは、教員自体の経験も必要とする課題と考えていた。

3. 総合的な学習の時間の全体計画

麻布高等学校「教養総合」は、「総合的な学習の時間⁸」をあてた選択必修授業として、高校1・2年を対象に土曜日の2時間実施されている。生徒は、テーマ性の高いゼミ形式の授業から、それぞれ自分の関心にあった講座を、通年もしくは学期単位で選択受講する。専任教員が行う授業に加え、卒業生など学外の複数の講師が担当するリレー式同一テーマの講座もある。

おおたとしまさ「男子御三家一なぜ一流が育つのか⁹」では、総合的な学習の時間を利用して創設された科目が教養総合（選択必修科目）であるが、2012年度の新学習指導要領の導入で、他の科目を履修しなければならなくなったため、「教養総合」の時数確保が危機にある実態について、担当教諭からの取材で明らかにする。

一方で、麻布学園から受験生等に配布する「教養総合授業案内」では、「これほど大規模に、そし

て長年にわたり進化を遂げながら継続している例は多く¹⁰⁾ないこと、「本校にはなくてはならない授業として、教員自ら考え抜き、守り、育ててきたからに他な¹¹⁾」らないことを現校長の平秀明は述べ、「教養総合授業」の重要性と今後の展望について改めて明示している。

3-1 教養総合授業の概要

ここで、「教養総合授業」の枠組みを記載する。麻布高等学校総合教養委員会が2016年10月に発行した「教養総合授業案内」リーフレットによると、「教養総合授業の枠組み・来歴・年間スケジュール」は次のように示されている。

総合教養授業の枠組み

教育課程表上の科目名：総合的な学習の時間（必修 高1、高2 各2単位 計4単位）

授業時間：土曜日3・4時間目の110分授業（含休憩時間）

対象学年：高校1年生、高校2年生

開講学期：学期単位で開講（各学期8回+予備1回が目安）

授業数：各学期に約30授業

分野：リレー（1つのテーマにそって複数の学外講師が担当する授業）

語学、人文、科学、芸術、スポーツ

授業形態：講義、演習（ゼミ形式や、問題演習など）、実技、補修・復習

人数：10名以下のものから70名まで多様（平均20名）

単位認定：点数ではなく「修了」をもって単位認定 修了要件は授業ごとに異なる

来歴

2000年頃：導入検討開始

2002年度：「特別授業」導入決定

2004年度：「特別授業」スタート 中3・高1・高2の3学年対象の選択必修授業
土曜日2、3時間目に設置

2005年度：「リレー講座」開設

2007年度：「特別授業」から「教養総合授業」に名称変更

高1・高2の2学年対象に変更

土曜日3、4時間目に設置時間変更

年間スケジュール

前年度2月：ガイドブック配布 1学期の授業選択

4月：1学期の授業開始

5月：2、3学期の授業選択説明会

6月：2、3学期の授業選択

9月：2学期の授業開始

11月：中学3年生対象の説明会・体験授業

12月：3学期の授業開始

講座担当教員の任意参加で、教養総合ガイダンス（高等学校第1学年1学期）を実施し、2学期・3学期に何を取るのか、授業概要を担当教員から直接聞いて考える機会としている。また、中学校第3学年の体験授業では、通常の教養総合授業予備日を使用して1日のみの体験授業が実施される。

3-2 授業の種類

2014年度「教養総合授業」全体では6件のリレー講座、13件の語学講座、14件の人文講座、14件の科学講座、11件の芸術講座、3件のスポーツ講座が実施され、2015年度は、6件のリレー講座、13件の語学講座、20件の人文講座、16件の科学講座、9件の芸術講座、3件のスポーツ講座が実施された。2014年度・2015年度に開講された「教養総合授業」のタイトルは以下になる。

2014年度 教養総合授業一覧 **分野**「授業名」

リレー「日本を読む、日本を書く」「Visual Workshop@AZABU2014」「生命倫理とは?」「司法と人権」「スポーツ医学」「どうする日本?!」**語学**「中国語入門」「中国語中級」「中国語上級」「ラテン語入門」「フランス語講座」「英仏語の読書・ペーパーバックを読む」「バック・トゥ・ザ・フューチャー 映画鑑賞とシナリオ研究」「シャーロック・ホームズを読んだことがありますか?」「中学英語総復習」「Alice's Adventures in Wonderlandを読む」「Read Better Read Faster」「Let's Watch American Movies」「南アンデスの言葉と文化を学ぶスペイン語入門」**人文**「身体論で読む女性文学」「戯曲を読もう、演劇を観よう」「堀辰雄を読む」「古典文法嫌いは集まれ!!（助動詞復習）」「古文の物語を作ってみよう!!」「『戦争』と『戦後』を知る」「喜劇と悲劇のなかにある政治学」「政治学の古典を読むーマキアヴェッリ『君主論』を読む」「『麻布中学校々友会雑誌』を読む」「オーラル・ヒストリー入門」「日本の伝統文化に触れよう」「乳幼児と触れ合おう」「映像ドキュメンタリーを見る」「地図とコンピューター」**科学**「物理で使う数値計算入門」「物理で使う数値計算応用」「理論化学総復習～原子のキモチを考える～」「分子生物学基礎実験」「身近な食べ物を作ってみよう!」「力学と微分方程式A」「力学と微分方程式B」「力学と微分方程式C」「数の性質をさぐる」「コンピューターを用いた数学演習（数C）」「数学の小話」「定番じゃない! 化学実験」「科学って何だろう」「地球科学実習」**芸術**「歌を歌おう（歌唱）」「歌を歌おう（伴奏）」「パーカッションアンサンブル」「篆刻（てんこく）一印を創る」「実用ペン字書道一きれいな字を書こう」「新体育館建設現場と東京近代建築」「メタルクラフト」「メタルスミス」「シルクスクリーン（スクリーンプリント）」**「ひたすら展示会に行ってみる」**「オペラを視聴（み）よう」**スポーツ**「バドミントン」「バスケットボール」「ボウリング」

2015年度 教養総合授業一覧 **分野**「授業名」

リレー「日本を読む、日本を書く」「ロボットを作ろう、動かそう」「アフリカ学」「現代医療について考える」「気分はもう戦争?」「メディアとエンタメの未来予想図」**語学**「中国語入門」「中国語中級」「中国語上級」「ラテンアメリカの言葉と文化を学ぶスペイン語入門」「ラテン語入門」「フランス語講座」「英仏語の読書・ペーパーバックを読む」「初心にかえて英語を学ぼう!」「中学英語復習道場」「英語名文アンソロジー～Authentic English Reading～」「Emmaを楽しむ～イギリス文学入門～」「From Discussions and Speeches to Debate」「Let's Watch American Movies」**人文**「文学と映像表現～映画と日本文学～」「文学と映像表現～映画とノーベル賞～」「文学と映像表現～アニメと文学～」「ニューヨークの芸術高校を舞台とする『Fame』を鑑賞する」「文学者と＜死＞夏目漱石を中心に」「『三人冗語』を読む 明治文学 メタ批評」「日本近代文芸評論」「私小説を読む」「三島由紀夫を読む」「くずし字が読める教養人になろう!」「教養としての東大古文」「世界に映る『日本』」「現代の思想を読む（2）民主主義とは何か」「現代の思想を読む（3）僕たちはどう生きるべきか」「Let's try NPO/NGO NPO/NGOの可能性」「映像ドキュメンタリー」「『麻布中学校々友会雑誌』を読む」「センター世界史のリード文を読む」「乳幼児と触れあおう」「日本的な美意識の原点を探ろう」**科学**「宇宙物理学入門a」「宇宙物理学入門b」「天動説から地動説へ」「理論化学総復習～原子のキモチを考える～」「初等量子化学入門」「定番じゃない! 化学実験」「物理で使う数値計算入門」「プログラミング入門演習」「プログラミング演習」「力学と微分方程式A」「力学と微分方程式B」「力学と微分方程式C」

C)「数学コンテストの問題に挑戦しよう」「バズル・ゲームの数学」「ミライをカタチに！～iPhone・Androidアプリの開発を体験しよう～」「ビデオを見て技術を考えよう」**芸術**「歌を歌おう（歌唱）」「歌を歌おう（伴奏）」「作法：ピアノ練習法を作ってみよう」「パーカッションアンサンブル」「篆刻（てんこく）一印を創る」**一**「実用ペン字書道—きれいな字を書こう—」「メタルクラフト」「シルクスクリーン（スクリーンプリント）」**「ひたすら展覧会に行ってみる」** **スポーツ**「バドミントン」「バスケットボール」「ボウリング」

上記のように、芸術分野の講座は専任教員が中心に「音楽」「美術」「工芸」「書道」の各分野に関するものが開講されている。またリレー講座「日本を読む、日本を書く」の中に「ふるさとの4番をつくる」といった音楽教育に関するもの、人文分野にも映像を鑑賞素材として使用する講座、さらに「芸術」教科の指導内容を含む各分野の講座が開かれ、まさに「総合的な学習の時間」ならではの体験型学習や学際的な要素をもち、教科としても横断的要素を含んだ内容になっている。

4. 「ひたすら展覧会に行ってみる」について

4-1 授業の概要

ここでは高等学校1学年向けに教養総合委員会が発行している「教養総合ガイドブック（2014年度・2015年度）」に記載された講座概要について転載する。巻頭に前校長の氷上信廣は「授業＜教養総合＞に寄せて」と題し、「生きる喜びの大半は知り、考え、感じることであるにちがいない。＜中略＞われわれが直面している地球規模における転換期にあつて、いまこそ新しい教養の探求が必要なのではないか。古き自分を脱ぎ去って・・・よく生きるために」と述べている。

以下は掲載された報告者の講座の概要である。

- (1) 開講学期：各学期に開講
2014年度、各学期8回の年間24回（単学期または複数学期の選択）、土曜日の3・4限目
2015年度、各学期8回の年間24回（単学期または複数学期の選択）、土曜日の3・4限目
- (2) 対象学年：高校1・2年生
- (3) 予定人数：各15人まで
- (4) 講座名：「ひたすら展覧会に行ってみる」
- (5) 担当教員：早川 陽
- (6) 授業のねらい：東京には美術館（博物館・資料館・展示スペース・アートフェア・ギャラリー含む等）がたくさんあります。しかし限られた美術の授業で実際に現地に行くことはなかなかありません。そこで芸術や文化、表現を支える関係性や展覧会の仕組みについて理解を深めます。さらに、基本的には毎回展覧会に足を運びます。話題の展覧会だけでなく、しみりと良かったり、歴史的な価値に気が付いたり、珍しい表現技法に出会ったり、行き先を検討して、ひたすら展覧会を鑑賞します。たとえば、港区に限っても美術館は15館あります。（○大倉集古館 ○岡本太郎記念館 ○菊池寛実記念智美術館 ○国立新美術館 ○秋山庄太郎写真芸術館 ○サントリー美術館 ○泉屋博古館分館 ○東京都庭園美術館 ○根津美術館 ○21_21DESIGN SIGHT ○畠山記念館 ○松岡美術館 ○パナソニック電工汐留ミュージアム ○森美術館 ○FUJIFILM SQUARE）表現をたくさん観ていると心がふるえる作品に出会うこともあります。また過去の一級の資料を観ることで視野が深まることもあります。この講座ではその瞬間を目指したいと考えています。
※行き先は麻布から歩いて行ける美術館に限りません。
- (7) 備考：行き先によって交通費・入場料がかかります。行先は未定です。
学期開始後にその時期に開催する展覧会を調べて予定を立てます。
- (8) 授業の形態：参加者による話し合いと見学
- (9) 評価：授業のレポート・出席による認定単位（成績表に短文のコメントあり）

受講生には中学校第1学年の時に受け持った生徒が約半数含まれていた。複数回の受講を可能としたので、全6期のうち重複選択した生徒は2名いた。また最初に実施した鑑賞したい美術分野の聞き取り希望調査では、幅広い分野に興味が分かれていた。そのため、「(6) 授業のねらい」には学校の位置する港区内の美術館等をピックアップして紹介していたが、実際には生徒との話し合いにより、多少移動時間はかかっても話題となっているタイムリーな展覧会を見に行くことが多かった。

また展覧会入場料は生徒の負担であるので、入場料の安いものを希望する学生もいた。実際に展覧会によっては土曜日に高校生無料日を設けている展覧会もあり、実施日を調整して行くことがあった。

展覧会は学校から移動可能な場所、現地解散が基本であった。会場に到着すると各自のペースで鑑賞するので、出発前に展覧会の概要の説明、スポンサー企業広告の話、展示の構成、基本情報を含めたプレスリリースの読み込み、プログラムの案内などを行った。また割引（高校生向けのものもある）、イヤホンガイド、美術品出品目録の見方、鑑賞カード、などの鑑賞の資料にまつわる話も伝えた。さらに、美術マーケットの実際、芸術家の生活、アートの範疇・美術用語の意味、目玉の展示品、技法・歴史的背景・思想・運動・作家の生涯、展覧会の作り方、アーティストインレジデンスとは何か、世界的な芸術祭（トリエンナーレとビエンナーレ）の紹介など、各回では専門的な内容を話した。

生徒の中には芸術大学への進学志望者もあり、校内の図書館ピロティーでの展示や、校外でのギャラリー展示を行い、新人作家紹介の雑誌記事に掲載された者もいた。

4-2 学習指導の流れ

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室に集合し、日程の確認をする。 ・ 参加生徒には2回目にかけて、情報の収集を指示する。 ・ 展覧会のポイントについてプリントを使用して解説し、紹介する。 ・ 行き先は生徒との話し合いで決定。 ・ 初回に行く美術館は報告者が日本画分野であることと、徒歩圏内であることから山種美術館に定着した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期ごとに行き先の予定を立て、校務主任・教科主任・教養総合担当教員に行き方の報告をする。展覧会の内容によるバランスや、場所、入場料などの条件によって、変更することもある。前日までに移動の詳細を確定させる。引率者の入場料と交通費片道は出張経費として精算する。 ・ 当日は出欠の確認のあと、出席者の一覧を報告し、出席表に記入をする。
展開①移動 10分～60分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徒歩やバス、電車などで移動する。 ・ 移動の間は個別に声を掛け、問題点を解消しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動手段は目的地によって差がある。また任意で追加の展覧会も回るので、移動時間・鑑賞時間は3・4限の時間帯におさまらないことも多い。2つ目以降は任意の参加とする。
展開②鑑賞 20分～180分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場の際に、点呼を取る。 ・ 会場内でも質疑応答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間は不規則に延長される。移動を伴う複数の展示の場合、参加は鑑賞者の任意。
まとめ解散	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出口で解散の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解散の報告を校務主任・教科主任に伝える。

4-3 行き先一覧表と学習活動

(A) 2014年度1学期第1回～第8回(参加人数各回8名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
1	4月12日	山種美術館	富士山世界文化遺産登録記念 富士と桜と春の花	高校生900円	主催:朝日新聞社、東山魁夷・川崎春彦等麻布学園の教員関係者の作品も観る	日本画 近世近代	徒歩
2	4月19日	国立新美術館企画展示室2E	イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる	高校生無料	国立民族学博物館 大阪にあるコレクションを一堂に見せる	民俗学近現代	徒歩
3	同上	国立新美術館企画展示室1E	中村一美展	高校生無料	抽象絵画モダニズム 大画面によるもの	絵画現代	徒歩
4	同上	21_21 DESIGN SIGHT	コマ展(展覧会ディレクター佐藤卓 竹村真一)	中高生500円	三宅一生デザイン文化財団 文化庁 経済産業省 農林水産省 港区教育委員会	デザイン現代	徒歩
5	4月26日	東京都写真美術館	101年目のロバート・キャバ 誰もがボブに憧れた	高校生700円	報道写真、歴史的な写真	写真現代	恵比寿
6	同上	東京都写真美術館	没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	高校生500円	狩野派から西洋画を経て写真家としての姿	写真近代	恵比寿
7	5月10日	東京国立近代美術館会場ギャラリー4	特集地震のあとでー東北を思うⅢ	高校生無料	Chim↑Pom、藤井光、宮本隆司などの映像インスタレーションを中心に	映像など現代	竹橋
8	同上	東京国立近代美術館本館所蔵品ギャラリー	所蔵作品展「MOMAT コレクション」	高校生無料	コレクションを中心に現代的なテーマで見せる	美術全般近代	竹橋
9	同上	東京国立近代美術館企画展ギャラリー	映画をめぐる美術ーマルセル・ブロータースから始める	高校生無料	マルセル・ブロータース、田中功起、やなぎみわ、など13作家	映画近現代	竹橋
10	同上	東京国立近代美術館工芸館	所蔵作品展 花	高校生無料	花をテーマにした工芸家の作品展	工芸近代	竹橋
11	同上	国立公文書館	春の特別展 高度成長の時代へ 1951-1972	無料	サンフランシスコ平和条約の調印から沖縄本土復帰に至る日本のあゆみ	現代公文書	竹橋
12	5月17日	東京都美術館	バルテュス展	高校生800円	バルテュスの回個展	油画近現代	上野
13	同上	国立科学博物館	石の世界と宮沢賢治	高校生無料	宮澤文学と石の関係を資料によって見せる 及び常設展示も合わせて	文学博物学	上野
14	5月31日	岡本太郎記念館	常設展など	高校生500円	岡本太郎の住んでいた記念館	アート	徒歩
15	6月21日	国立競技場	建物周辺の散策	無料	オリンピック競技場再開発予定地	建築物	バスと徒歩
16	同上	聖徳記念絵画館	常設展示 ※建物も重要文化財	高校生100円	明治の日本画、洋画による歴史画	絵画	バスと徒歩
-	7月12日	まとめ	イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ			映画	学内

初回は徒歩で行けることと引率者の専門分野である山種美術館(徒歩圏内はサントリー美術館、森美術館、根津美術館、岡本太郎記念館、21_21 DESIGN SIGHTなど)に決定した。委員会活動や、部活、打ち合わせなどで、昼休みまでに戻らなくてはいけない学生がいることが分かった。入場料は毎月のお小遣いを使うもの、保護者に予算を伝えるものなど、それぞれであった。保護者と展覧会についての話がすすみ、ご両親・祖父母が行ったという報告もあった。展覧会の選定方法は、ポータルサイト「アートスケープ」の「おすすめの展覧会」を参照したり、展覧会場にある他の展覧会のチラシを集めたりしながら、行き先を話し合った。

(B) 2014年度2学期第9回～第16回(参加人数各回14名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
1	9月13日	山種美術館	水の音ー広重から千住博まで	高校生800円	主催:山種美術館 読売新聞社	日本画	徒歩
2	9月20日	東京大学大学院総合文化研究科 教養学部駒場博物館	日本の蝶 展	高校生無料	駒場東大前すぐのため寄った	標本	駒場東大前
3	同上	日本民藝館本館	カンタと刺子ーベンガル地方と東北地方の針仕事 展	高校生600円	日本民藝運動と柳宗理について	民藝	駒場東大前
4	同上	日本民藝館西館	柳宗悦の住んでいた建物の中を見学	同入場券	建物は公開日が限られるので合わせた	民藝	駒場東大前
5	同上	旧前田侯爵邸洋館	重要文化財、建築物の内部を見学	無料	徒歩圏内なので建築を見学	建築	駒場東大前
6	同上	日本近代文学館	通常展示 近代文学の名作 明治展	高校生100円	さらに文学館も寄る	文学	駒場東大前
7	9月27日	Bunkamuraミュージアム	25周年特別企画 だまし絵Ⅱ 進化するだまし絵	高校生1,000円	だまし絵は高校生に人気があった	東急文化構想	広尾→渋谷
8	同上	渋谷ヒカリエ8/	デザイン物産 2014展		ヒカリエと東急について	東急文化構想	渋谷徒歩
9	10月11日	国立新美術館企画展示室1E	チューリヒ美術館展ー印象派からシュルレアリスムまでー	高校生無料観覧日	無料観覧日に合わせて	絵画	徒歩
10	同上	国立新美術館企画展示室2E	オルセー美術館展 印象派の誕生ー描くことの自由ー	高校生800円	生徒の希望の多かった展示	絵画	徒歩
11	10月25日	森美術館	リー・ミンウエイとその関係展 参加するアートー見る、話す、贈る、書く、食べる、そして世界とつながる	高校生3展共通1,000円	共催:台湾文化部 後援:台北駐日経済文化代表処・台北文化センター	関係性のアート	徒歩
12	同上	森美術館	ヤコブ・キルコゲール	〃	主催:森美術館 後援:デンマーク大使館	映像	徒歩
13	同上	森美術館	展望台+pixiv展	〃	森美術館の流れで	イラスト	徒歩
14	11月1日	横浜美術館	横浜トリエンナーレ	高校生800円 or1,400円	横浜市、横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会	アート	みなとみらい
15	同上	新港ピア(新港ふ頭展示施設)	横浜トリエンナーレ	上記共通券	横浜トリエンナーレ別会場	アート	みなとみらい
-	11月8日	まとめ	イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ		アンケート 感想文の作成について	アート	学内
16	11月22日	東京都庭園美術館新館/ギャラリー	リニューアルオープン 内藤礼信の感情	高校生350円	リニューアルオープン初日に行く	アート	バスと徒歩
17	同上	東京都庭園美術館本館	アーキテクツ/1933/Shirokane アール・デコ建築をみる	高校生350円	建築の修復の展示	建築	バスと徒歩

この回は、少し電車で移動して駒場東大前駅から徒歩圏内の駒場博物館や日本民藝館、旧前田侯爵邸洋館などの建築文化財を始めとする散策形式でツアーを組んだ。時間も長くなるので、2ヶ所目以降は任意の参加とした。中盤は六本木周辺の徒歩圏内にある森美術館や国立新美術館を回り、後半は横浜トリエンナーレまで遠出して鑑賞を行った。横浜トリエンナーレは場所が遠かったが希望者が多く、見に行きたい候補に上がってきた。また最終回は東京都庭園美術館のリニューアルオープン初日に行くことができた。

総合的な学習の時間における連続美術鑑賞活動の実践

(C) 2014年度3学期第17回～第24回 (参加人数17名うち2回目の受講が1名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
1	11月29日	山種美術館	東山魁夷と日本の四季	高校生900円	山種美術館、日本経済新聞社	日本画	徒歩20分
2	1月10日	国立近代美術館ギャラリー4 (2F)	奈良原一高 王国	高校生無料	国立近代美術館 奈良原一高アーカイブズ フォト・ギャラリー・インターナショナル	写真	竹橋
3	同上	国立近代美術館本館所蔵品ギャラリー	所蔵作品展MOMAT コレクション	高校生無料	東京国立近代美術館	近代美術	竹橋
4	同上	東京国立近代美術館企画展ギャラリー	高松次郎ミステリーズ	高校生無料	公益財団法人花王芸術・科学財団株式会社 遠藤照明	現代美術	竹橋
5	同上	国立近代美術館工芸館	近代工芸案内・名品選による日本の美	高校生無料	東京国立近代美術館	近代工芸	竹橋
-	1月17日	休講					
6	1月24日	学術文化総合ミュージアム インターメディアテク	特別展示 FIRST SIGHT 特別展示 黄金郷を彷徨うーアンデス考古学の半世紀ー、他	高校生無料	主催：東京大学総合研究博物館	博物資料	二重橋前
7	同上	東京ステーションギャラリー	東京駅100年の記憶展	高校生700円	主催東京ステーションギャラリー 読売新聞社	建築	二重橋前
8	同上	出光美術館/三井記念美術館	絵物語ことばとかたち/雪と月と花		東京駅からすぐ	日本絵画	東京
9	2月7日	東洋文庫ミュージアム	もっと知りたいイスラーム	高校生500円	東洋文庫 割引券利用	資料	駒込
10	同上	六義園 (任意参加)	国指定名勝	高校生300円	東京都公演協会	庭園	徒歩
11	同上	旧古河庭園 (任意参加)	国指定特別名勝	高校生150円	東京都公演協会	庭園	徒歩
12	2月14日	Bunkamura ザ・ミュージアム	キャプテン・クック探検航海と『バンクスタース花譜集』展	高校生900円	Bunkamura、読売新聞社	博物図譜	渋谷
13	同上	Bunkamura	ナショナル・ギャラリー 英国の至宝181分	高校生1,000円	Bunkamura ル・シネマ13:00～	映画	タクシー
14	2月21日	サントリー美術館	天才陶工 仁阿弥道八	高校生900円	サントリー美術館、朝日新聞社	陶芸	徒歩25分
15	同上	21_21 DESIGN SIGHT	単位展 あれくらいそれくらいどれくらい?	高校生500円	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生活デザイン文化財団	デザイン	徒歩移動
16	同上	外務省外交史料館別館展示室	マッサン展 13時30～	入場無料	外務省	資料	徒歩移動
-	2月28日	休講					
17	3月14日	東京国立博物館本館特別5室	みちのくの仏像	高校生400円	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社	彫刻	上野
18	同上	東京国立博物館本館特別2室・特別4室	3.11大津波と文化財の再生	高校生無料	東京国立博物館、津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	文化財	上野
19	同上	東京国立博物館	その他に、本館常設・東洋館 法隆寺宝物館など	高校生無料	東京国立博物館	常設	上野

この回は1学期に受講した2度目の生徒が参加した。他の生徒は初めてなので、2回目の生徒が既にいった場所はなるべく減らし、新規に行ってみたいところを探した。その中でも学術文化総合ミュージアムは非常に好奇心を刺激したらしく感銘を受けた様子であった。また非常勤講師の方が勤務していた東洋文庫ミュージアムと六義園などの日本庭園も初めて鑑賞に加えた。後半は渋谷や六本木、表参道周辺を回ったが、最終回は上野の東京国立博物館まで遠出してボリュームのある展覧会を鑑賞した。12ヶ所目のル・シネマ映画館で鑑賞に関する映画を観るといった、内容を盛り込んだ。上映時間の関係で事前に教務主任、教科担当の先生に相談し、移動にタクシーを利用した。国立近代美術館は引率する教員の入場料無料についての知識がなく、後の展示では引率者割引が適用された。

(D) 2015年度1学期第1回から第8回 (参加人数各回6名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
1	4月11日	山種美術館	花と鳥の万華鏡ー春草・御舟の花、栖風・松篁の鳥ー	大高生800円	山種美術館、日本経済新聞社	日本画・近世近代	徒歩
2	4月18日	新国立美術館	ルネ・マグリット	高校生800円	主催：国立新美術館、ベルギー王立美術館、読売新聞社、TBS	絵画・近代	徒歩
3	同上	新国立美術館	ルーブル美術館 日常を描くー風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄	800円	主催：国立新美術館、ルーヴル美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社	絵画	徒歩
4	4月25日	岡本太郎記念館	岡本太郎の「生命体」	一般620円 クーポン100円引	公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団	個人記念館	徒歩
5	5月9日	宮内庁三の丸尚蔵館	鳥の楽園ー多彩、多様な美の表現	無料	宮内庁	近代美術	地下鉄
6	同上	東京国立近代美術館	生誕110年 片岡球子	400円	主催東京国立近代美術館、日本経済新聞社	日本画	地下鉄
7	同上	東京国立近代美術館本館	所蔵作品展MOMAT コレクション	高校生無料	主催東京国立近代美術館	全般	地下鉄
8	同上	東京国立近代美術館	大阪万博1970デザインプロジェクト	高校生無料	主催：東京国立近代美術館、協力：大阪府	デザイン	地下鉄
9	同上	東京国立近代美術館工芸館	所蔵作品展 近代工芸と茶の湯	高校生無料	主催：東京国立近代美術館	工芸・近代	地下鉄
10	5月23日	東京都庭園美術館	フランス国立ケ・ブランリ美術館所蔵 マスク	高校生600円	主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、朝日新聞社	工芸・建築	バス
11	6月6日	森美術館	シンプルなかたち展 美はどこからくるのか	高校生1,200円	主催：森美術館、ボンビドー・センター・メス	全般	徒歩
12	同上	森美術館	スターウォーズ	高校生1,200円	森美術館の流れで紹介	映像	徒歩
13	同上	森美術館	NARUTO展	高校生1,300円	森美術館の流れで紹介、大変な混雑	マンガ	徒歩
14	6月20日	富士フィルムスクエア・富士フィルムフォトサロン	写真歴史博物館～170年を越える写真の変遷を中心とした展示～	無料	富士フィルム株式会社	写真	徒歩
15	同上	21_21 DESIGN SIGHT	動きのカガク展	高校生500円	主催：21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生活デザイン文化財団	インスタレーション	徒歩
16	同上	サントリー美術館	着想のマエストロ 乾山見参！展	高校生1,000円	主催：サントリー美術館、読売新聞社	工芸・近世	徒歩
17	6月27日	新国立美会場 企画展示室1E 術	ニッポンのアニメマンガゲーム展	無料	主催：国立新美術館	マンガアニメ	徒歩

1番参加者が少なかった回であるが、逆にゆったりと移動して展示を見ることができた。中でも丸の内オフィス街の建築様式の話をしながら江戸城の敷地を抜けて東京国立美術館の敷地に移動した際は、歩く距離は長かったが、街の雰囲気も散策として楽しむことができたように思う。後半は定番である六本木周辺の展覧会場を徒歩で移動して鑑賞した。21_21 DESIGN SIGHT 動きのカガク展は特に人気が高かった。

(E) 2015年度2学期第9回から第16回(参加人数各回16名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
1	9月12日	山種美術館	「琳派と秋の彩り」展	高校生900円	山種美術館、日本経済新聞社	日本画	徒歩
2	9月19日	FUJIFILM SQUARE (フジフィルム スクエア)	“昭和90年”記念企画「昭和のこども—どんな時にも笑顔があった!」展・常設展	無料	主催:富士フィルム株式会社 企画:株式会社クレヴィス	写真	徒歩
3	同上	21_21DESIGN SIGHT	企画展「動きのカガク展」	高校生500円	主催:21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団	デザイン	徒歩
-	同上	サントリー美術館			紹介のみ		徒歩
4	9月26日	江戸城	大手門~北桔橋門にかけて	無料	城内を歩く	建築	地下鉄
5	同上	三の丸尚蔵館	1920s-30sモダン・エイジー光と影の造型美(第70回展覧会)	無料	皇室所蔵の工芸品・絵画など	工芸・絵画	二重橋前
6	同上	東京国立近代美術館本館所蔵品ギャラリー	所蔵作品展MOMAT コレクション特集:藤田嗣治、全所蔵作品展	高校生無料	主催:東京国立近代美術館	絵画	竹橋
7	同上	東京国立近代美術館本館	企画展 てぶくろ ろくぶて	半券で入場可	主催:東京国立近代美術館	現代	竹橋
8	同上	東京国立近代美術館工芸館	所蔵作品展 こども + おとな工芸館 ビカ☆ポコ オノマトベで読みとく工芸の魅力	半券で入場可	主催:東京国立近代美術館	工芸	竹橋
9	10月10日	横浜美術館	蔡國強 帰去来	高校生900円	主催:横浜美術館、読売新聞社 ※毎週土曜日は、高校生以下無料	アート	電車
10	同上	横浜美術館	横浜美術館コレクション展	半券で入場可	常設	近代美術	
11	10月24日	3331Arts Chiyoda1F メインギャラリー	中村政人 個展「明るい絶望」	高校生無料	主催3331 Arts Chiyoda	インスタレーション	湯島
12	同上	3331Arts Chiyoda他のフロア	カフェ・ギャラリー・ワークスペースなど	無料	画廊やワークスペースなど	施設	徒歩
13	10月31日	インターメディアテク	『驚異の小部屋』ケ・ブランリ・トウキョウ『原初美術マオリの木彫像』特別展示「造形美考フォーラムの「美」をめぐる」他	無料	〔総合監修〕東京大学総合研究博物館館長西野嘉章 [ミュージアム企画] 東京大学総合研究博物館	博物学	地下鉄
14	同上	東京ステーションギャラリー	『月映(つくはえ)』田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎展	高校生700円	【主催】東京ステーションギャラリー(公益財団法人東日本鉄道文化財団)	版画	有楽町
-	同上	東京駅周辺	旧東京中央郵便局舎・三菱一号館美術館・出光美術館など紹介のみ		東京駅周辺の文化施設について紹介	建築	東京
-	11月7日	休講					
15	11月21日	カイカイキキギャラリー	村上隆個展「円相」	無料	麻布高等学校校すく横のギャラリー	現代アート	徒歩
16	同上	森美術館	村上隆の五百羅漢図展	高大生1,100円	森美術館、朝日新聞、NHKプロモーション	現代アート	徒歩
-	同上	新国立美術館	改組 新 第2回 日展 紹介のみ	高校生700円	日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書	美術	徒歩
17	同上	国立新美術館企画展示室1E	ニキ・ド・サンファル展	高校生800円	国立新美術館、フランス国立美術館連合グラン・パレ、ニキ芸術財団、NHK、NHKプロモーション	アート	徒歩

この回に関しては新たに開拓した美術館や場所はないが、今まで人気の高かった展覧会場を中心に、再度展覧会を回ることができた。学術文化総合ミュージアムはやはり人気であった。また参加者の中には芸大志望者があり、受験の話や、展覧会の組み立て方や企画書の書き方、予算の編成など、具体的な話題を移動時間に提供しながら、より意識的に展示をみた。彼はその後、学内・学外での展示企画発表を試みるが、「ひたすら展覧会に行ってみる」だけでなく、様々な経験を活かして活動につなげている。

(F) 2015年度3学期第17回から第24回(参加人数各回15名うち2回目の受講が1名)

回	月日	行き先	展覧会名/企画展名	入場料	主催/共催/後援 出品者などの情報メモ	分野時代	移動方法
-		休講					
1	1月9日	山種美術館	伊藤若冲生誕300年記念 ゆかいな若冲・めでたい大観—HAPPYな日本美術—	高校生900円	御正月の縁起にちなんだもの	日本絵画	徒歩25分
2	1月16日	国立新美術館	はじまり、美の饗宴展、すばらしき大原美術館コレクション	高校生800円	大原美術館所蔵の作品展	近代現代	徒歩25分
3	1月23日	21×21デザインサイト	建築家フランク・ゲーリー展	高校生800円	デザインの展示	デザイン	徒歩25分
4	同上	富士フィルムスクエア	写真、写真機の展示	無料	企業の写真ギャラリー・カメラ博物館	写真	徒歩25分
-	同上	サントリー美術館	(紹介のみ)		デザインサイト周辺の美術館		徒歩25分
-	同上	ムサビサテライト	(紹介のみ)		情報サイト		徒歩25分
5	2月6日	三の丸尚蔵館	北欧の工芸—自然が生み出す—	無料	皇室に贈られたもの	工芸	地下鉄
6	同上	東京国立近代美術館1F 企画展ギャラリー	企画展 恩地孝四郎展	高校生無料	東京国立近代美術館、和歌山県立近代美術館、東京新聞	版画	竹橋
7	同上	東京国立近代美術館本館所蔵品ギャラリー	所蔵作品展MOMAT コレクション特集:ちょっと建築目線のみ美術、編年体	企画展の半券	企画展と同会場	近代美術	竹橋
8	同上	東京国立近代美術館本館	企画展 ようこそ日本へ:1920—30年代のツーリズムとデザイン	企画展の半券	企画展と同会場	デザイン	竹橋
9	同上	東京国立近代美術館工芸館	所蔵作品展1920—2010年代 所蔵工芸品に見る 未来へつづく美生活展	企画展の半券	企画展から徒歩すぐ	近代工芸	竹橋
10	2月13日	横浜美術館	村上隆のスーパーフラット・コレクション	高校生無料日	横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、日本経済新聞社	コレクション	徒歩
11	同上	横浜美術館	コレクション展 2015年度第3期	半券	横浜美術館企画展示の流れで鑑賞	近代美術	みなとみらい
12	同上	宮川香山眞葛ミュージアム	宮川香山眞葛焼の展示	高校生200円	株式会社三陽物産の私設コレクション	工芸	みなとみらい
13	2月20日	岡本太郎記念館	岡本太郎の常設展			現代美術	徒歩
14	同上	青山 観宝堂	琉球陶器や紅型などの展示	高校生無料	岡本太郎美術館からすぐ	琉球陶器	徒歩
15	2月27日	Bunkamuraザ・ミュージアム	英国の夢ラファエル前派展	高校生1,000円	Bunkamura、東京新聞	洋画	渋谷
-	同上	森美術館	「村上隆の五百羅漢図展」	高校生1,100円	紹介のみ	アート	徒歩
-	同上	国立新美術館など	「フェスマールとレンブラント 17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち展」[18th DOMANI明日展PLUS]		紹介のみ	絵画	六本木
-	3月12日	予備日 休講					

最終回は新規で行った美術館は横浜の宮川香山眞葛ミュージアムと青山にある沖繩の骨董を扱う観宝堂のみである。高等学校の位置から距離やベースのつかめる、既に行った場所を再訪した。展覧会は1年で数回展示内容が変わるので、新鮮味がある。引率する側としての場所の新鮮味は減るが、落ち着いたペースで回ることができた。画廊は高校生が来ることは珍しく、スタッフの方に喜んでいただけた印象である。

4-4 連続して展覧会をみることの意味

教養総合授業「ひたすら展覧会に行ってみる」2014年度1学期は、8名の参加・16件の展覧会、2学期は14名の参加・17件の展覧会、3学期は17名の参加・19件の展覧会、合計すると、延べ39名の生徒が52件の展覧会を鑑賞することができた。同じく2015年度1学期6名の参加・17件の展覧会、2学期は16名の参加・17件の展覧会、3学期は15名の参加・15件の展覧会、合計延べ37名の生徒が49件の展覧会を鑑賞することができた。2年分を合計すると延べ76名の生徒が101件の展覧会を鑑賞（どちらの年度も任意参加の展覧会を含む）に参加したことになる。生徒ひとりあたりは学期毎に約17件の展示を鑑賞した。

各学期の最終回にはまとめとして意見交換を含む、感想文の提出を求めた。全ての展覧会の中で印象的だったものを挙げ、感想を記入してもらう。その中には例えば次のようなものがあった。

「琳派からまわった。俵屋宗達の隣に琳派の説明があり、『伊勢物語』が題材に好まれたことを知った。この日みたのは抱一の『宇津の山図』、鈴木其一の『高安の女』だった。古文の期末考査を直前に控え、ちょうど『伊勢物語』を勉強していたこともあり、これはとても為になった。「駿河なる宇津の山へのうつつにも夢にも人に逢はぬなりけり」「手づから飯匙を取りて氣子の器にもりけるを」それぞれ象徴的な場面が描かれていた。ほとぼりが冷めるまで都を離れた業平の孤独な巡礼と美しくも険しい自然というのは題材として面白い。（一部抜粋）」

高2 M君

鑑賞を行った際に、知識として情報を受け取るだけでなく、日常の課題とリンクして実感として作家の表現を受け取ることがある。また日常の関心の方向によって、見えてくる情報も自ずと変化する。このように生徒に受け入れられる作品には生徒の関心を受け入れるだけのコンテキストやコードがあるのではないか。

今回の実践を行うまでは、高校1・2年生の世代特有の面白さの基準、興味・関心を示す展覧会はある程度一致するのではないかと考えていたが、生徒個々によって、選択する展覧会は予想外に票が分かれ広範囲に渡っていた。また個々の意見をひろう中で、レポートで回収されない機微な感覚の変化や個人的な意見は多くあるように感じた。

対話型美術鑑賞はファシリテーターの発問によって、グループ内発言を自然な形で引き出すことができる。しかし個人対個人ではなく多人数での発言になると、デリケートな意見や疑問を最終的には見逃す可能性もある。今回は議論では出てこなかった小さな声が、展覧会に行く途中の道筋の会話や、少人数の選択講座での交流によって聞こえてきたように思われる。教師にとって40人では実施しづらい授業を、10人前後で行う研究授業の一環でもあったわけだが、個人の考えを最大限保証する関係性を構築できるという点も、散策型鑑賞教育の利点であると考えている。

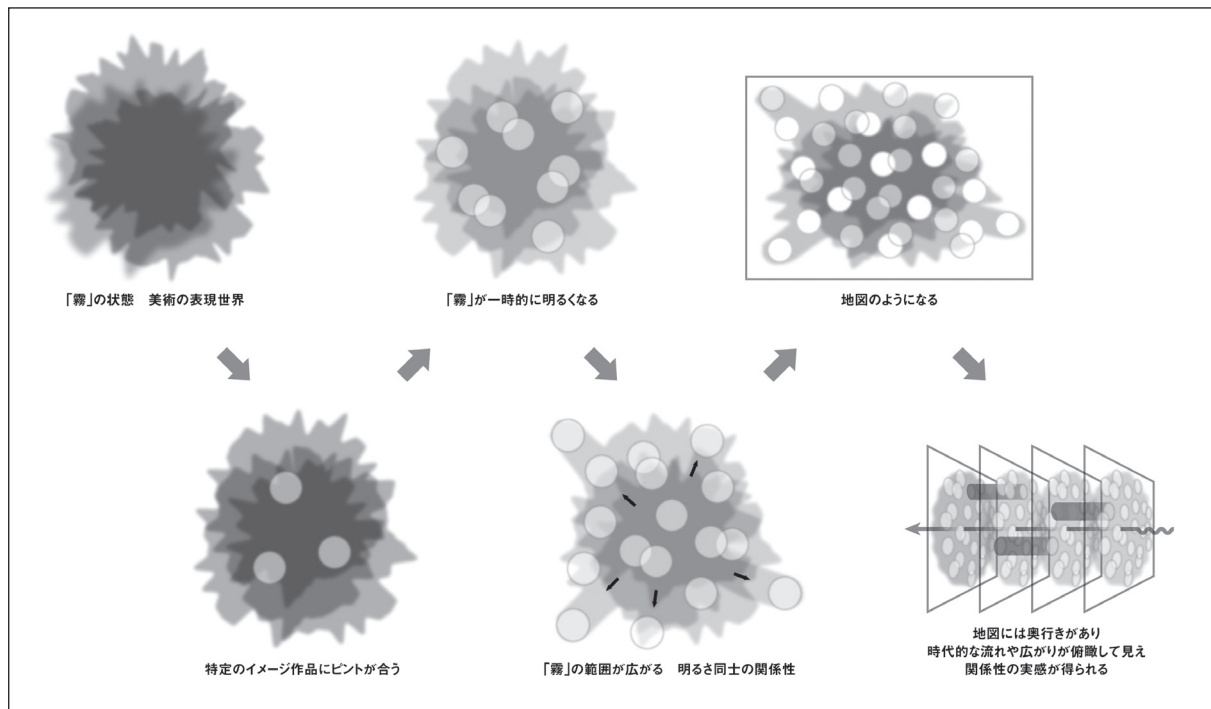
「美術」教育や「芸術（美術・工芸）」の題材では、教師が設定した範囲内での自由がある程度予測（課題に即した材料を用意）されていて、教室で主に制作を進める。しかし今回の散策型の鑑賞は話し合いによって方向性を決定し、教師の予測しなかった行き先の選定が幾つもあった。実際に存在する地域の文化施設の中で、それぞれのタイミングに必要な展示内容を吟味し、思いついたら議論して次の週には実際に行ってみる。点在する地域の文化資源・材料を探すという要素をもった鑑賞教育であったともいうことができる。

このことから、鑑賞教育の基盤になるイメージの散策用の地図を増やし、散策する環境を整え、出発するための敷居を低くするなど、習慣づくりにつながる鑑賞教育とも言える。最終的に、ほとんどの生徒は自主的に展覧会へ行ってみたい、または行くことに敷居が低くなったという感想を記しており、これからの主体的な鑑賞に繋がっていくのではないかと期待される。

5. おわりに

この活動によって、参加した高校1・2年生の、興味関心や意識がどのように変化したのか。講座に参加することで、たまたま観に行った展覧会に思わず感動したり、量を観る中で時代や思想が芸術運動としてつながってきたり、塊として美術を体感することによる発見があったと考えられる。

初めはモヤモヤとした「霧」のような美術の表現世界がある。展覧会の紹介（特定の作品や作家のイメージ）を通してパシッとピントが合う。実際に見に行ってみるとその周辺の「霧」が一時的に明るくなる。幾つか展覧会を見るうちに明るさ同士の関係性が見えてきたり、予想外の作品に出会うことによって「霧」の範囲が広がったりする。やがてその「霧」の全体は地図のようになる。さらに地図には奥行きがあり、時代的な流れや広がりが見え、関係性として実感できるようになる。



私自身は、「高等学校1・2学年当時、大量の展覧会を観て回った経験」「大学3年時の古美術研究旅行で2週間寺社を回り続けた経験」「今回の100以上の展覧会を観て回った経験」などがあり、これらは塊としての美術鑑賞経験であったといえる。量で観ることは、塊としての美術領域に全体感があることを自ずと実感させる。

この経験は美術と言われるものの総体を「塊（量）」「散策型」「関係性の実感」として捉えること、あるいは美術の連続鑑賞の意味について考察することを可能とさせたのではないかと考える。

注

- 1 三澤一実「美術教育の題材開発」武蔵野美術大学出版局 2014年 PP.339-340
- 2 各専任講師（2014年当時、美術2名・工芸1名・音楽2名・書道1名）に加え、非常勤講師も複数名（2014年当時、美術1名・音楽2名・書道1名）が担当していた。
- 3 学校教育法施行規則別表第2（第73条関係）
- 4 麻布学園の授業方針について公式サイトには「日本画・西洋画・彫刻・工芸・声楽・器楽・作曲・書道をそれぞれ専攻した教諭陣がそろっており、とくに高校においては美術・工芸・音楽・書道の4科目を選択履修できるように配慮しています。」と示されている。報告者は日本画分野の担当講師として赴任していた。HPアドレス <http://www.azabu-jh.ed.jp/kyouiku/kyouiku.htm> アクセス日2016年10月20日
- 5 その後、2014年度・2015年度・2016年度は外部講師として「教養総合授業」を担当することになる。本報告は2014年度・2015年度の内容にあたる。
- 6 三澤 前掲書 PP.340-341
- 7 年に3回の芸術科全体の会議が実施されている。また「論集」という生徒の授業課題をまとめた本を発行しており、美術科・芸術科の代表的な課題は、参考になるものをカラー刷りで撮影・印刷した。
- 8 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」海文堂出版 2009年 及び文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）」教育出版 2013年 参照
- 9 おおたとしまさ「男御三家—なぜ一流が育つのか—」中公新書ラクレ 2016年 PP.106-107
- 10 2016年10月発行 麻布高等学校教養総合委員会「教養総合案内」リーフレットより
- 11 前掲、同リーフレットより転載